

子どもたちの未来のために。

週刊オーレはJETOみやぎを通じて震災孤児を応援しています。

東日本大震災からもうすぐ7年。

宮城県の復興計画では今年から元々な宮城を築き上げる

「発展期」へとフェーズを移し、

子どもたちの未来を明るくする話題が増えています。

週刊オーレはこれから震災孤児64名(支援対象)への継続的な支援と

宮城の「創造的な復興」を応援してまいります。

復興期

2011年～2013年

再生期

2014年～2017年

発展期

2018年～2020年

子どもたちのための「創造的な復興」に向けて、各分野で明るい話題が増えています。



新ブランド米「だて正夢」この秋いよいよ本格デビュー

古川農業試験場で開発された新品種が、だて正夢と命名され、昨秋デビューを果たしました。もちもちとした食感を試された方も多いのでは。今秋はいよいよ本格デビューを迎え、首都圏を中心に展開されます。「みやぎ米の夢をかなえた、これぞ天下をとる苗さ」のキャッチフレーズどおり天下をとってほしいです。



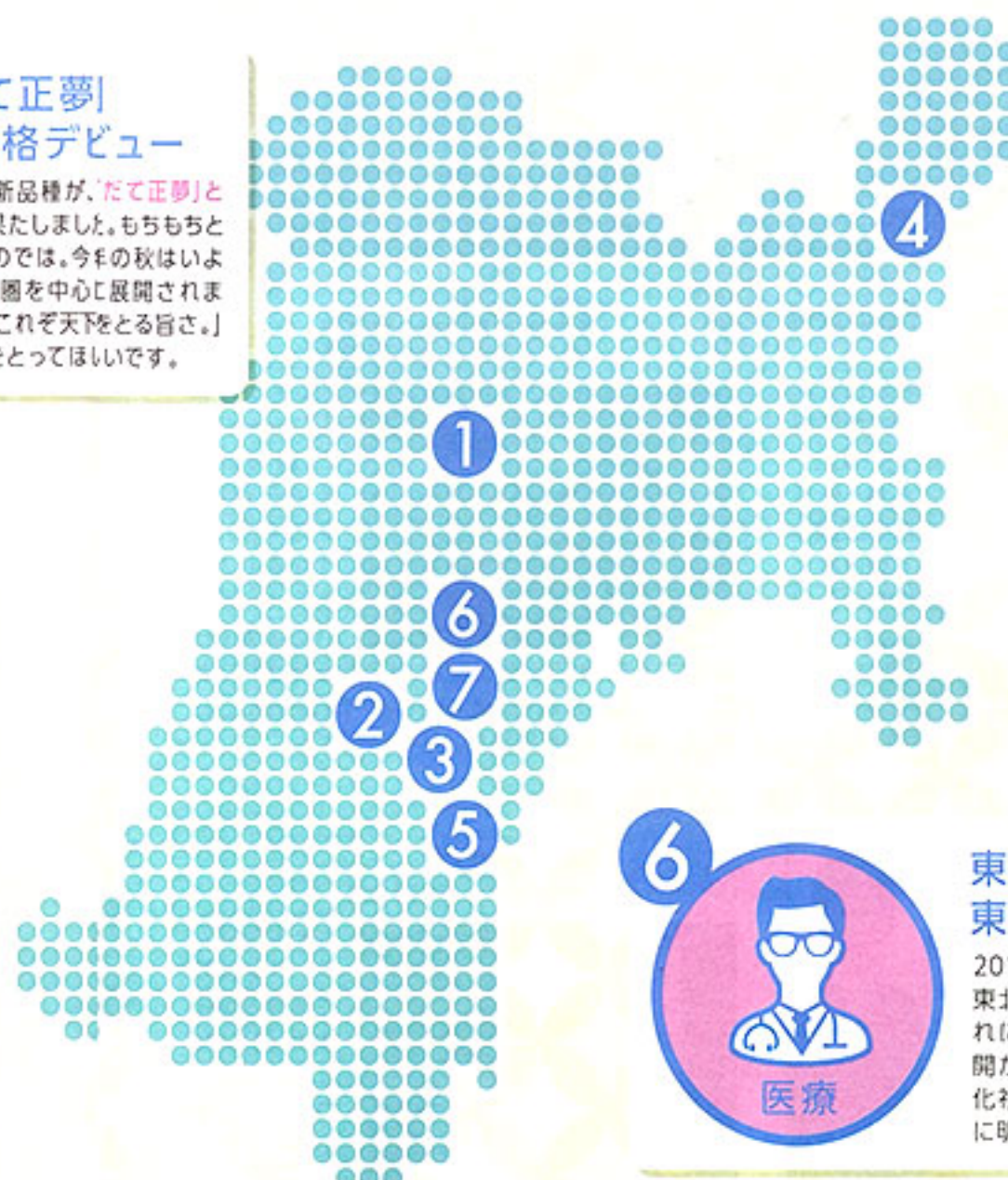
東北放射光施設計画実現へ最先端技術の開発拠点目指す

高速に近い速度に加速させた電子の方向へ曲げられた際に発生する光を利用して物質の解析を行う「放射光施設」の建設計画が進められています。完成すれば更なる企業誘致や、新産業の創出が期待されるこの施設。東北経済連合会や東北大学が中心となって、実現を目指しています。



仙台二華高に国際バカロレア導入グローバルな人材を育成

県立中高一貫校の仙台二華高に、グローバルな人材を育成する世界共通の教育プログラム「国際バカロレア」が導入されます。スタートは2021年度を目指すそう。英語での指導を受け、調査研究や討論などを行うプログラムで国際的な視野を持った人材が育成されます。東北宮城から世界へ。



三陸自動車道歌津ICまで開通東北の沿岸部がもっとつながる

2017年12月三陸自動車道南三陸海岸IC～歌津ICが開通。仙台北ICから歌津ICまでは89.7km。今月内には気仙沼中央ICまで112.8kmの開通を予定しています。将来的には八戸まで359kmがつながる予定。東北の沿岸部へのアクセスが向上し、復興の加速が見込まれています。



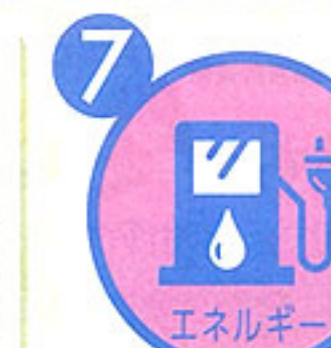
仙台空港民営化でLCCなど増便国際化で観光客増に期待

2016年7月に民営化された仙台空港は、スカイマークやピーチ・アビエーション、タイガーエアなどのLCCが増便し、海外からの旅客数も1年で約4割増となりました。インバウンドのプロモーションと合わせて、今後ますます海外からのお客さまが増えそうです。



東北医科薬科大学誕生東北の医師不足解消へ

2016年4月に東北医科薬科大学が誕生(旧:東北薬科大学)。医学部が新設されました。これにより医師を目指す人への門戸がさらに開かれ、被災地域の復興はもちろん、超高齢化社会への対応など、東北の地域医療の現場に明るい未来が期待できます。



東北初となる水素ステーション誕生エネルギーの未来へ

2017年3月、仙台市宮城野区の県有地に「イワタニ水素ステーション宮城仙台」が開業。燃料電池車(FCEV)に燃料の水素を供給する商用の水素ステーションとしては東北初。隣接地のコンビニへの電力供給を行うなど、車だけでなく水素エネルギーの普及拠点となることが期待されています。

子どもたちの未来に、ステキな未来を創造しましょう。



宮城県知事 村井 嘉浩さん

3月11日で東日本大震災から7年になります。被災地において、復興のため日々懸命にご尽力されている被災者の方々は、関係者の皆様に敬意を表します。また、国内外の皆様からの心温まるご支援に対し、心より御礼申し上げます。これまでの復興・復興に向けた県民一丸となった取り組みにより、各種インフラの整備が一步步着実に進んでいます。3月25日には三陸縦貫自動車道の大谷海岸～気仙沼中央インターチェンジ(IC)間が開通するほか、3月末には災害公営住宅の96パーセントが完成する予定です。また、「創造的な復興」を掲げ種をまいてきた「仙台空港民営化」や「医学部新設」など民間の力を最大限に生かした取り組みも実を結んできております。

平成30年度は、復興の道筋を示した宮城県震災復興計画の総仕上げとなる「発展期」に入りますが、被災者の生活再建や地域経済の再生など、復興のさらなる加速化を図るとともに、遅れがみられる分野への支援や復興の進展に伴い生じる新たな課題へのきめ細かな対応にも総力を挙げて取り組んでまいります。また、復興計画期間の先も見据え、交流人口の拡大や医療・介護など福祉の充実をはじめとする取り組みも併せて推進してまいります。

宮城県といたしましては、復興を成し遂げ、一人一人が輝く、元々な宮城を県民の皆様とともに築き上げてまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

子どもたちの未来へ。継続的なご支援へのご協力をお願いいたします。

※後援からの基金は非営利団体「JETOみやぎ」を通じて宮城県内の震災孤児へ贈られます。

3.11東日本大震災

認定 特定非営利活動法人

JETOみやぎ
孤児の「生命(いのち)の物語」支援



JETOみやぎでは、これまで38名の方が支援対象終了となる20歳を迎えることができ、そのうち進学された5名の方は継続、支援児童は57名となりました。支援金のほかにもヒアリングを行いながら、保護者とお子さまの良好なコミュニケーションが取れるよう、サポートしています。一番小さなお子さまは8歳、成人になるまではあと11年。引き続き、皆さまからのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

銀行振込にてお願い申し上げます。※お振込手数料はご負担ください。

七十七銀行名掛丁支店 普通預金 6027695 「ダッチャーの奨学金」



たくさんの企業より本企画の主旨にご賛同いただき、子供たちの未来のためにご支援を賜りました。

本企画の協賛金の一部を JETO みやぎ 震災孤児の「生命の物語」支援に寄付いたします。※敬称略 50 音順



秋保グランドホテル

ANNA SUI

